

第15回全日本ユース(U-15)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2022/12/25】

この試合のプレー集計

決勝

京都府選抜

4	－	1
5	－	2
2	－	5
4	－	3
PSO		

11 山口水球クラブ

審判：

津崎 明日美
中村 友美

京都府選抜	35	SH数	39	山口水球クラブ
	6	速攻数	0	
	16	ST・SB	5	
	13	SH・P誘発アシスト	11	
	39%	GK阻止率	35%	
	14	EX反則数	4	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

前回大会と同じ顔合わせとなった女子決勝戦。ジュニア・ユース世代では両チームが頭一つ抜けている状況で、昨年敗れた山口がリベンジを果たして初優勝を遂げるか、それとも京都が返り討ちにして連覇を果たすか。双方の攻撃力は同レベルだけに、ボール接点を軸としたディフェンス面が勝負の分かれ目になるだろう。

【1P】

スタートの京都攻撃でセンター⑫高木のバックシュート得点からゲームが進行する。京都は山口の攻撃を②城之下、⑫高木らが高い地点でプレスをかけて優位に立ち、そこでボールを奪って②城之下が決めて2点目。ここで早くも山口ベンチはタイムアウト。その効果もあって攻撃リズムは改善されるが、度々の退水攻撃チャンスもプレスDFで思うようにボールが回らず、逆に京都⑫高木が3点目をゲット。序盤は京都のDFが完全に山口を制した形となった。さらに山口がプレッシャーからパスミスし、それに乗じて右サイドをドライブした⑫高木がこのピリオド3点目をマーク。山口はピリオド終盤に③三田がミドルレンジからのシュートで1点を返すにとどまった(京都4－1山口)。

【2P】

第2ピリオドもDFからの攻め上がりで京都が追加点。山口は③三田にボールを集めて点差を詰める。しかし京都DFの圧力、カバーの速さは山口を完全に上回り、⑦大前のボール奪取から自身が決めて6点目。京都の8点目は2対2攻撃で⑦大前が動き勝ちで決めるなど、京都の優位は動かない展開。余裕の出た京都はピリオド終盤にはメンバーを大量に入れ替えても優位は動かない。京都9－3山口と予想外の点差で前半を折り返した。

【3P】

挽回を期する山口が切れのいいシュートを武器に波状攻撃を仕掛け、退水を奪ってからようやく得点。懸命に攻撃する山口だが、なかなかシュートが決まらず、逆に京都の速攻SHが決まって再び6点差。ここから山口③三田が機能し、連続得点。さらに京都側の攻撃リズムが悪くなり、攻防の転換での退水が急増して山口ペース。ここまでで京都側のPFは11、山口は2という状況で、山口は数的有利な展開から少しずつ点差を詰めて京都11－8山口の3点差で最終ピリオドへ。

【4P】

ピリオド序盤の主導権を握りたい山口。センターボールをニュートラルスローで奪取した山口が右サイドを突いて退水誘発。そこをまたしても③三田が決めて2点差に詰め寄る。こうなると山口が押せ押せに出て、ゴール前で③三田が決めて1点差。劣勢の京都だが、山口のオフENS反則から②城之下がミドルレンジからのシュートで2点差に戻し、直後の退水DFも凌ぎ、その後の苦しい展開も辛抱してまたしても②城之下が連続して決めて突き放す。最終的には京都15－11山口で序盤のリードを守って連覇達成。

山口は京都DFの圧力が減ったことで終盤追い上げを見せた。山口にとって試合序盤のプレスはある想定済みでのゲームプランだったと思われるが、それを上回る京都の集中力が勝因だった。プレスによるボール接点でのPFが増えることも京都側としては予想していたと思われ、数的不利な状況でも落ち着いてカバーすることで失点を最小限に留めた。京都側のディフェンス、ベンチワークが山口を上回った決勝戦だった。